

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、自ら進んで計画を立て、学習することが苦手なものが多い。支援を必要とする生徒も学級毎に複数名在籍し、学習した内容・方法や自分の成長を十分振り返ることができていない。



学び続ける力を育むための重点目標

○子どもたち自身が、自らの学びを自分で選び進めるという意識を高め、理解度や進捗を確認しながら学習できるようにする。



具体的な手だて①

単元の目標と毎時間の授業の目標を、あらかじめ生徒に提示し、学習のゴールを明確にする。生徒が計画的に見通しをもって学習ができる環境を整える。

具体的な手だて②

紙とICTという二項対立ではなく、言語活動を充実させるための、適切なツール選択を行う。また、生徒自身が目的に沿って、自ら学習手段などを選択できる場面を設定する。

具体的な手だて③

生徒の実態を正確に把握し、個別最適な学びを実践できるよう、教員自身が授業のフェーズに応じて、ティーチング「教える」、コーチング「支える」、ファシリテーション「つなぐ」のどの立場をとるかを柔軟に選択する。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・9～10月に授業観察週間を設け、教員がお互いの授業を見合う機会をつくる。
- ・校内研修を計画的に行い、課題や成果の共有をはかる。
- ・研修資料をクラウド上にのせ、全職員が資料の閲覧ができるようにする。

児童生徒調査

※肯定的回答の割合 (%)

肯定的回答の割合 (%)	昨年度	目標 (5月)	結果 (1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	62.1	67	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	80.1	85	

教員調査

※肯定的回答の割合 (%)

肯定的回答の割合 (%)	昨年度	目標 (5月)	結果 (1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	61.1	66 教員入れ替わり	
②個別最適な学びを実現するため、事前に個に応じた課題や支援方法を計画している。	83.3	88	

総括 (5月)

計画を立て、学習を進めるのが苦手な生徒が多く、学び方を自分で選び、学習を進める機会が少ない。また、全国学力学習状況調査の結果から、生徒は、PCなどのICT機器が、学習に有用だと実感しているものが多いが、授業で使用するが週3回以上と回答したものの割合が、34.6%と少ない。本校では、自己調整学習への取り組みや、ICT機器の活用に課題があると考え、日常の授業において、ICT機器を活用する場面を増やし、生徒が自身の学びを計画的に行い、学び方を選択し、振り返ることができる場面を各教科取り組むことを目指す。

総括(1月)